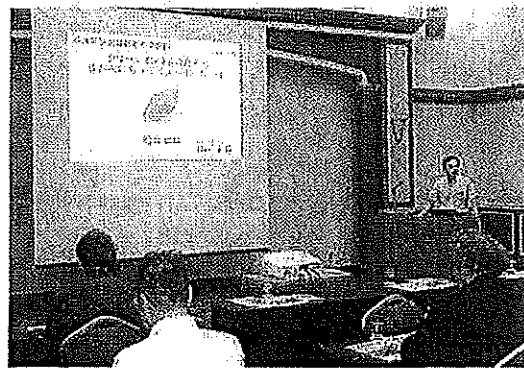


【関西/新商品・新技術を3社がレクチャー】

新商品・新技術を 3社がレクチャー

兵庫設監

兵庫県建築設計監理協会（瀬戸本淳会長）は17日、神戸市の神戸三宮東急REIホテルで第41回技術研修会を開いた。写真。会員ら約50人が参加し、東邦レオ、藤岡金属、水谷ペイントの3社が新商品・新技術をレクチャーした。東邦レオ大阪支店の車周輔グリーンテクノロジー事業関西・中部グループ主任がグリーンインフラの意義と導入事例について紹介した。グリーンインフラとは緑化など自然が持つ機能を利用したインフラ設備のことで、車主任は、



国内外での事例を紹介しながら「植物の健全な育成や雨水貯留・浸透効果、ヒートアイランド対策などで効果が期待できる」と話した。続いて、藤岡金属の白瀧京樹設計室次長は薄板を活用した建築金物を紹介した。同社

は、板金工事で使用する薄板を用い、オーダーメイドで壁埋め込み式の消火器ボックスや壁点検口の扉などを手掛けている。白瀧次長は「軽量なので運搬面でも施工面でも効率がよく、コストダウンにもつながる。デザイン性や耐久性にも優れ、実用新案登録で最高技術評価を受けている」とPRした。また、同社の野村靖郎開発部次長がリン酸処理塗装技術を紹介した。このほか、水谷ペイントの松良昌彦経営企画室企画課長、同西日本開発部の梶原淳部長らが、発売15周年を迎えた地球温暖化対策壁用塗料「ナノコンポジットW」の軌跡を解説した。

建通新聞 2019年6月20日

【企業ニュース/神戸市内で技術研修会開く】

神戸市内で技術研修会開く

兵庫県建築設計監理協会/約50人が参加



兵庫県建築設計監理協会（瀬戸本淳会長）は6月17日、神戸市内のホテルで第41回技術研修会を開いた。研修会では東邦レオなど3社が技術を発表し、参加した正会員や協力会員など約50人は理解を深めた。

瀬戸本会長は、「今回も3社から良い技術を教えてもらえるので、参加者は今後の仕事の参考に

してほしい」とあいさつした。

研修会では最初、東邦レオが「グリーンインフラの意義と導入事例」について発表し、ゲリラ豪雨や数十年に一度の大雨に対応可能な事例や、街路樹のさまざまな問題に対し、グリーンインフラ導入でどう改善したかを紹介した。

藤岡金属は、「薄板を用いた建築製作金物」について発表し、実用新案最高技術評価を取得した点検扉の構造などを解説した。

水谷ペイントは、「ナノコンポジットW発売15周年の軌跡」を発表。大型商業施設、マンション、戸建て住宅での採用事例や、塗料の特性を紹介した。

【近畿/メーカー3社の技術説明会】

メーカー3社が技術説明



戸三宮東急REIホテルで第41回技術研修会を開いた。正会員や協力会の会員各社から約60人が参加し、熱心にメーカーの説明に耳を傾けた。写真。

メーカー3社の 技術説明を聴講

兵庫設監が研修会

兵庫県建築設計監理協会（兵庫設監、瀬戸本淳会長）は17日、神戸市中央区の神

研修会では最初に東邦レオが、緑化を通して都市機能の向上に役立てる「グリーンインフラ」の意義を解説し、国内外の導入事例などを紹介。雨水の貯蓄・浸透効果やゲリラ豪雨などの減災対策、沿道樹木の根上がり防止、植物の健全な育成などにつながることを強調した。

続いて藤岡金属が耐久性や意匠性に優れ、点検扉などに使用されるオリジナル薄板を紹介。軽量化と低コストを追求し、取り付けが容易で施工時間を短縮できることや、リン酸塗装を施すことで個性的なデザインに仕上がり、光害対策も実現できることを説明した。

このほか、水谷ペイントが低汚染性と耐久性を備えた壁面塗料「ナノコンポジットW」の発売15周年の軌跡について解説した。